

林田伸一教授 略歴および研究業績

略歴

1954 年生まれ

【学歴】

- 1977 年 3 月 東京外国語大学外国語学部フランス科卒業（文学士）
1977 年 4 月 東京大学大学院人文科学研究科 西洋史学専門課程 修士課程入学
1980 年 3 月 東京大学大学院人文科学研究科 西洋史学専門課程 修士課程修了
（文学修士）
1980 年 4 月 東京大学大学院人文科学研究科 西洋史学専門課程 博士課程進学
1984 年 9 月 東京大学大学院人文科学研究科 西洋史学専門課程 博士課程単位取得満期退学

【職歴】

- 1984 年 10 月 東京都立大学人文学部 助手
1990 年 4 月 東洋英和女学院大学人文学部 専任講師
1994 年 4 月 東洋英和女学院大学人文学部 助教授
1998 年 4 月 成城大学文芸学部 助教授
2004 年 4 月 成城大学文芸学部 教授

【著書】

『ルイ 14 世とりシュリユール』山川出版社、2016 年

【分担執筆】

専修大学人文科学研究所編『フランス革命とナポレオン』未来社、1998年

第1章「革命前フランスにおける地方行政と王政改革」

柴田三千雄ほか編『世界歴史大系 フランス史2』山川出版社、1996年

第5章「最盛期の絶対王政」

福井憲彦編『世界各国史・フランス史』山川出版社、2001年

第4章「近世のフランス」

二宮宏之・阿河雄二郎編『アンシアン・レジームの国家と社会』山川出版社、2003年

第7章「ロラン・ムーニエと絶対王政期のフランス」

佐藤彰一・中野隆生編『フランス史研究入門』山川出版社、2011年

第4章「17世紀のフランス」

中野隆生・中嶋毅編『近世ヨーロッパの拡大』南窓社、2012年

「序」「第5章 ヨーロッパの拡大」

河原温・池上俊一編『都市から見るヨーロッパ史』放送大学教育振興会、2021年

「第12章、第13章、第14章、第15章」

【論文】

1978 「フランス絶対王政下の都市自治権—アミアンを中心として—」『史学雑誌』

第87編第11号

1988 「フランス絶対王政期における都市自治体官職の売官制」『人文学報』〈東京

都立大学人文学部〉第199号

1992-93 「18世紀フランスの都市制度と王権—ラヴェルディの改革をめぐって—」

(上・下)『東洋英和女学院大学・人文社会科学論集』第5号、第6号

2003 「フランス近世都市における「寡頭支配」について」『ヨーロッパ文化研究』

第 22 集

- 2005 「フランス絶対王政期の地方長官補佐について—アンジェ管区を中心に—」
 (一)『ヨーロッパ文化研究』第 24 集
- 2008 「フランス絶対王政期における地方長官補佐の権限と特任状」『ヨーロッパ文化研究』第 27 集
- 2011 「フランス絶対王政期の地方長官補佐について—アンジェ管区を中心に—」
 (二・完)、『ヨーロッパ文化研究』第 30 集
- 2011 「フランス絶対王政期における国務会議裁決と行政の技術」『成城文藝』第 214 号
- 2011 「十八世紀後半におけるフランスの地方行政と地方長官補佐「心得」」『成城文藝』第 215 号

【編集】

『二宮宏之著作集』全 5 巻、岩波書店、2011 年（福井憲彦、工藤光一との共編）

【翻訳】

- 1982 『世界の教科書＝歴史 フランス 3』（井上幸治編訳）ほるぷ出版
- 1983 『家の歴史社会学』（二宮宏之ほか編訳）新評論
- 1995 『江戸とパリ』（鶴川馨ほか編）岩田書院
- 2004 R. デシモン「貴族は「種族」か社会関係か？—近世フランスの貴族を捉えるための新しい方法を探る—」『思想』2004 年 3 月号（959 号）、岩波書店
- 2011 Hiroyuki Ninomiya「日本における若者とその運動—1850～1950」『二宮宏之著作集』第 2 巻、岩波書店
- 2011 A. Burguière「目覚めさせてくれた人、二宮さん」『二宮宏之著作集』第 4 巻月

報、岩波書店

2021 R. デシモン・F.Csandy 『フランス絶対主義』岩波書店（絶対主義研究会として）

【その他】（学界動向・書評・解説・資料紹介・短文など）

〈学界動向〉「1981年の歴史学界—回顧と展望—・近代フランス」『史学雑誌』第91編第5号、1982年

〈文献紹介〉ピエール・デイヨン『監獄の時代』『史学雑誌』第92編第10号、1983年

〈事典項目執筆〉『平凡社大百科事典』1985年

〈学界動向〉「1986年度歴史学研究会大会報告批判・近世史部会」『歴史学研究』562号、1986年

〈文献紹介〉有賀弘・佐々木毅編『民主主義思想の源流』『歴史学研究』568号、1987年

〈文献紹介〉千葉治男『義賊マンドラン—伝説と近世フランス社会』『史学雑誌』第97編第3号、1988年

〈文献紹介〉樋口謹一編『空間の世紀』『史学雑誌』第97編第11号、1988年

〈歴史用語の協力〉『ロベール仏和大辞典』小学館、1988年

〈学界動向〉「1990年の歴史学界—回顧と展望—・近代フランス」『史学雑誌』第100編第5号

〈文献紹介〉Alexis de Tocqueville, *De la Démocratie en Amérique*, première édition historico-critique revue et augmentée par Eduardo Nolla, 2 vols., Paris, Librairie Philosophique J.VRIN, 1990. 『日仏歴史学会会報』第7号、1990年

〈概説〉「絶対王政期の国家」『国家と民族』学習研究社、1992年

〈文献紹介〉アンドレ・ジャルダン『トクヴィル伝』『歴史学研究』673号、1995年

〈概説〉『人物世界史・西洋編』（今井宏編）山川出版社、1995年「ルイ16世」他を

執筆

- 〈概説〉「フランス王国」『歴史群像』12月号、学習研究社、1995年
- 〈概説〉「王権と宮廷」『歴史群像』6月号、学習研究社、1996年
- 〈概説〉「ナショナリズムの誕生と変容」『歴史群像』6月号、学習研究社、1996年
- 〈学界動向〉「1998年の歴史学界—回顧と展望—近代フランス」『史学雑誌』第108編第5号、1999年
- 〈書評〉阪上孝『近代的統治の誕生』岩波書店、1999年、『社会経済史学』66-1、2000年
- 〈学界動向〉「日仏学術シンポジウムについて」『日仏歴史学会会報』第16号、2000年
- 〈報告概要〉「日本西洋史学会第51回大会中近世史部会報告概要」『西洋史学』、2001年
- 〈事典項目執筆〉『世界史辞典』角川書店、2001年
- 〈文献目録・解題〉二宮宏之・阿河雄二郎編『アンシアン・レジームの国家と社会』山川出版社、2003年
- 〈訳者解題〉デシモン「貴族は「種族」か社会関係か？」『思想』2004年3月号
- 〈報告概要〉（関西フランス史研究会第30回大会講演要旨）「フランス絶対王政期の地方長官補佐について」『関西フランス史研究会会報』第23号、2004年
- 〈学界動向〉「『国民国家と帝国—ヨーロッパ諸国民の創造』の書評会について」『メトロポリタン史学』、創刊号、2005年
- 〈史料紹介・解説〉歴史学研究会編『世界史史料』第6巻、岩波書店、2007年「七年戦争の終結—パリ条約」「啓蒙思想と思想統制」「王政改革の試み」「アンシアン・レジーム末の危機」「ウィーン会議」「フランス革命時の植民地奴隷制度の廃止」

- 〈解題〉二宮宏之『フランス アンシアン・レジーム論』岩波書店、2007年
- 〈書評〉正本忍「近世フランスにおける地方警察の創設」『法制史研究』59号、2010年
- 〈書評〉高澤紀恵『近世パリに生きる—ソシアビリテと秩序』岩波書店、2008年、『史学雑誌』第119編第6号、2010年
- 〈コメント〉「シンポジウム伝統都市の比較史・全体コメント」『年報都市史研究』18号、2011年
- 〈解説〉『二宮宏之著作集』第4巻、岩波書店、2011年
- 〈あとがき〉(高澤紀恵と共同執筆) 工藤光一『近代フランス農村世界の政治文化』岩波書店、2015年
- 〈解説〉二宮宏之『マルク・ブロックを読む』岩波書店〔岩波現代文庫〕、2016年
- 〈副読本〉「フランス革命下のパリ」成城大学ヨーロッパ文化学科編『ヨーロッパと都市』、2016年
- 〈副読本〉「フランス革命と女性」成城大学ヨーロッパ文化学科編『ヨーロッパと女性』、2017年
- 〈解説〉『歴史家 二宮宏之の書棚』筑波大学附属図書館、2016年(二宮素子、高澤紀恵、津崎良典と共同執筆)
- 〈監修〉『マリー・アントワネット 革命に散った悲劇のフランス王妃』集英社、2016年
- 〈書評〉佐々木真『ルイ14世期の戦争と芸術—生みだされる王権のイメージ—』作品社、2016年、『歴史学研究』2017年
- 〈書評〉J. ダイングダム(大津留厚・小山啓子・石井大輔訳)『ウィーンとヴェルサイユ—ヨーロッパにおけるライバル宮廷 1550-1780』刀水書房、2017年、『西洋史学論集』〈九州西洋史学会〉第55号、2018年

〈追悼文〉「教師としての二宮先生」『日仏歴史学会会報』第22号、2007年

〈追悼文〉「工藤さんのこと」『ふらんぼー Flambeau』41号、2015年

〈解説〉「アンシャン・レジーム論」金澤周作（監修）『論点・西洋史学』ミネルヴァ
書房、2020年

〈短文〉「文芸学部のコロナ対応」『成城教育』190号、2021年

〈短文〉「習志野と軽便鉄道」『民俗学研究所ニュース』134号、2021年

